

土屋美寧子ピアノリサイタル

先達へのオマージュ *Homage to precursors*

尊敬と愛情をこめて

今回のプログラム前半は変奏曲です。天才の手で、先輩作曲家のシンプルなアリアが魅力的な姿に変奏され、ひいてはモーツァルトではチャーミングなオペラの世界が、またブラームスでは重厚なシンフォニーの世界が広がってゆく素晴らしさを聴いていただきたいと思います。

後半は、武満徹がチェレスタのような澄んだ響きで、敬愛していたフランスの作曲家メシアンを追憶する小品。そして戦争で失った友人達のポートレイトをフランス古典組曲の形式で描いたラヴェルの組曲です。

2011年は、身近にあった命が、またこれまで培ってきたさまざまなものが一瞬にして消滅するショックを味わった年でした。先達への尊敬と愛情がこもったこれらの作品を味わい、それぞれの作曲家が見せてくれる個性あふれる新たな領域に触れて、今、生きていられることに感謝するとともに、さまざまな困難のある現状を超えてゆく力が、音楽によって授かるような一夜を皆様と共に過ごせたら幸せです。

土屋美寧子

Profile

土屋美寧子 Mineko Tsuchiya

5歳より岸川基彦氏の指導でピアノを始める。のち鷹取淑子氏、永井進教授らに師事。都立駒場高校音楽科を経て東京芸術大学音楽学部卒業。1971年クロイツァー賞受賞。1973年よりドイツ、フライブルク音楽大学で、カール・ゼーマン、ヘルムート・バルト各教授らに師事。1975年同校卒業。1977年にはイタリア、シエナ夏期講座でディプロマ名誉賞を受けた。1979-84年までスイスの「エルネスト・ジークドルフ」でジョルジ・シェベック教授に師事。

1976年から東京、名古屋など国内各地で定期的に続けているソロリサイタルは、毎回テーマを持ち、その企画と演奏の両面で高い評価を得ている。近年は2006年に「フランス音楽の流れの中のショパン」、2008年に「シューマン夫妻とブラームス」、2010年に「アニヴァーサリー：生誕300年、200年、100年を迎える作曲家」と題して開催。「アニヴァーサリー」の演奏は主要音楽誌すべてで賞賛を得た。

2009年はロシア室内オーケストラとモーツァルトのピアノ協奏曲を協演。2011年はPTNA主催の「公開録音コンサート」に出演。

ヴァイオリニストの和波孝*とはデュオを組み、日本各地や欧米各国で数多くの演奏や放送およびCD録音を行っている。他の弦楽器奏者を加えての室内楽でも「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」や「八ヶ岳サマーコンサート」など国内各地で演奏やCD録音などの活動を続け、近年は岩崎洗氏(チェロ)を加えてのピアノトリオで好評を博している。

毎夏山梨県北杜市で開催している「八ヶ岳サマーコース」では室内楽グループのコーチを務め、1999年からは主にピアニストを対象とした「室内楽短期セミナー」を主宰。2009年より沖縄芸大で室内楽実習集中授業を担当している。

発売中のCDには「トロイメライ：R.シューマン作品集」のほか「ベートーヴェン：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ全10曲」(2006年文化庁芸術祭参加)「ブラームス：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ全三曲」「プロコフィエフ：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第一番、第二番ほか」「シューベルト：ピアノトリオ第一番、ピアノ五重奏曲"まず"」「フランク：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ、ピアノ五重奏曲」がある。

